

地域の絆で地元を守る消防団

～大切な人、大切なまちを守るために～

「消防団」という言葉はよく耳にしますが、どのような人が団員となり、どのような活動をしているのかまでは、あまり知られていないのではないのでしょうか。

今月は、私たちが住むまちで、火災などの災害が発生した時に、消火活動・救命活動などに取り組んでいる消防団について学んでいきましょう。

問合せ／防災危機管理課 ☎048 (473) 1123

消防団とは

消防組織法第6条に基づき市が設置している消防機関です。住民の安心・安全を守ることを目的に組織されており、災害の予防、被害の軽減などが任務です。

現在の消防団組織は、団本部・本部分団及び地区ごとに5分団で構成されています。災害が発生した際に市民の生命と財産を守るために、「自分たちが住むまちは自分たちで守る」という消防団員としての使命感のもと、21歳から68歳までの91人(男性86人 女性5人)の消防団員が活躍しています。

消防団員は、普段は別の仕事に就いている非常勤の特別職地方公務員です。普段の仕事をしながら、職場の理解と協力を得て、まちの安心・安全を守るため消防団活動にあたっています。

志木市消防団組織

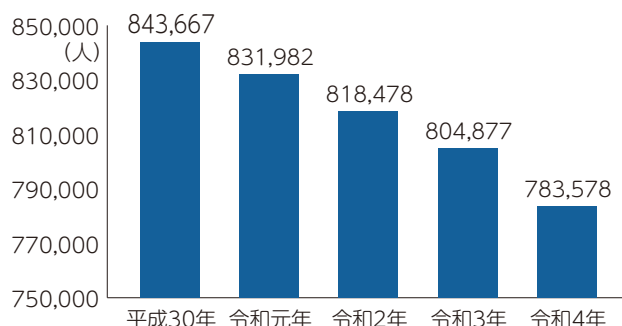
名称	場所	管轄区域
本部分団	中宗岡1-1-1	市内全域
第1分団	本町6-16-23	本町全域
第2分団	幸町3-4-61	幸町全域、館全域
第3分団	本町1-6-30	柏町全域
第4分団	上宗岡1-8-37	上宗岡区域(4丁目を除く)、中宗岡1・4丁目1～4番・7番、中宗岡5丁目
第5分団	中宗岡4-7-16	上宗岡4丁目、中宗岡2・3丁目、中宗岡4丁目5・6番・8～21番、下宗岡全域、堤外

全国的に減少する消防団員数

総務省消防庁の発表によると、令和4年4月1日時点の全国の消防団員数は、78万3,578人と過去最少であり、前年同時期と比較して2万1,299人減少し、平成以降最大の減少幅となりました。

都道府県ごとの消防団員数を前年度と比べると、沖縄県を除く46都道府県で消防団員が減少するという衝撃的な結果でした。

全国の消防団員数推移(令和4年4月1日時点)

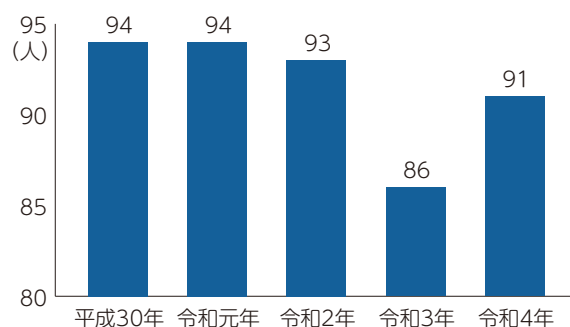


志木市の消防団員数はほぼ横ばい

本市の消防団員数は、平成30年と令和4年12月1日時点と比較するとわずか3人の減少で留まっているものの、市の条例で定められている定数103人を下回っている状況です。

消防団員が減少する背景には、高齢化による退団の数に対して新入団員が追いつかないことが挙げられますが、近年の新型コロナウイルス感染症の影響により、勧誘活動が進まないことも要因の一つです。

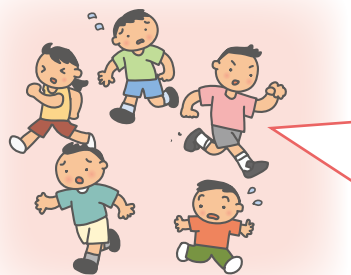
志木市消防団員数推移(令和4年12月1日時点)



消防団員が少なくなると…



火災発生時、初期消火がままならず被害が拡大してしまう。



災害発生時の避難誘導などがままならず、混乱が生じやすくなってしまいます。



地域と連携して防災訓練を行う機会が減り、消火器の使用方法などを学ぶ機会が減ってしまう。



災害発生時に、救出作業や応急処置が間に合わず、医療ひっ迫にもつながってしまう。

まちの安心・安全を継続するためには

まずは、市の条例で定められている消防団員の定数103人を満たすことが重要です。そのためには、新しい消防団員の確保が必要となります。消防団の活動は、勤務中であっても急遽出動しなくてはならないことがあるため、いくら入団を強く希望する人がいたとしても、職場の理解や協力がなければ消防団の活動に参加することはできません。まちの安心・安全を守るためには、地域が一体となって消防団の活動を理解し、支援していく必要があります。

大切な人、大切なまちは私たちが守ります！

志木市には地元を愛し、地元の安全を守りたいという使命感をもって消防団活動に参加している頼もしい人たちがいます。

今回、第1分団に所属している古賀さんと長谷川さんに、入団のきっかけと入団してどのような意識の変化があったかなどを聞いてみました。



飲食店勤務
古賀 紘次郎さん(29歳)

入団のきっかけは？

もともと都内で働いていましたが、飲食店を営む家業を継ぐために志木市に戻ってきました。

先輩からの誘いもありましたが、「自分たちが住むまちは自分たちで守る」という気持ちは何よりも強かったことから平成29年に自分の意志で入団しました。飲食店で働いているので、火が身近な存在にあることも入団の決め手になりました。

入団して変わったことは？

防火・防災意識が格段に高まりました。

飲食店を営む者として入団前から防火意識はありましたが、入団し、現場を経験してみると火の怖さは想像以上でした。その経験から、今ではより一層火に対しての警戒心が強くなり、火の元の確認を徹底するなど火災を未然に防ぐ習慣が身についたと思います。

入団のきっかけは？

子どものころから消防団に興味を持っていたことに加え、育ててもらった地元之恩返しをしたいという思いが強くなり、平成30年に入団しました。

結婚して子どもを持つ親となつてからは、消防団活動を通して、地元を大切にする姿を我が子に見せられていることを誇りに思っています。

活動していて感じることは？

私も「自分たちが住むまちは自分たちで守る」という使命感をもって活動に取り組んでいます。火事場は緊張感がありますが、月に2回ある車両の整備作業などの活動は、コミュニケーションを大切に、温かい雰囲気のもと取り組んでいます。

楽しさを感じながら防災意識も高められる環境は素晴らしいと感じています。



建設業勤務
長谷川 遼さん(29歳)

消防団員として活動しませんか？

迷っていたり、少しでも興味のある人は、ぜひ入団をご検討ください。防災意識が向上し、普段

の生活では体験できないような貴重な経験ができます。

私たちといっしょに、大切な地元の安全を守りましょう！入団を希望する人は、防災危機管理課までご連絡ください。



▲古賀さんと長谷川さんは同級生。固い絆で結ばれています。

主な消防団活動

5月	水防訓練	9月	体力強化訓練
6月	災害対応訓練	11月	消防連合点検
7月	宿組天神社祭礼・敷島神社祭礼雑踏警戒	12月	歳末特別警戒
		1月	消防出初式

市役所グランドテラスで 3年ぶりに消防出初式が開催されました！



令和5年1月8日(日)、リニューアルされた市役所グランドテラスで3年ぶりに消防出初式が開催されました。澄み渡る青空の下で行われる訓練の様子に、たくさんの人たちが見学に訪れていました。

消防 出初式とは

新年にあたり、消防士気の高揚と市民に対する防火思想の普及啓発を図ることを目的に開催する一大イベントです。

志木消防署・志木市消防団・自警消防隊による救出・救護訓練展示などが行われます。

救出・救護訓練・一斉放水の様子



▲倒壊した家屋の屋根から、負傷により避難ができない人を救出する訓練の様子です。4人体制で連携をとりながら、素早く丁寧に救出活動を行っています。



▲倒壊した瓦礫の下敷きになり、身動きができない人を自警消防隊が救出する訓練の様子です。周りの状況を確認しながら、安全に救出活動を行っています。



▲建物内部にいる要救助者を救出するため、スプレー注水で消火活動を行いながら、内部へ徐々に進入している様子です。



▲一斉放水の様子です。横一列から一斉に放たれた放水によって現れたきれいな虹に、見学している人たちからは歓声があがりました。